

1

旭硝子株式会社

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 調達から廃棄にわたるサプライチェーン全体でのCO₂排出量を把握し、環境負荷を低減するための対策を検討する。● ステークホルダーからの情報開示の要求に対応すると同時に当社の環境負荷低減の取り組みを理解してもらう。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● CO₂排出量の大きいカテゴリでの環境負荷削減に取り組む。● 算定結果をCSR報告書で公表し、ステークホルダーからの情報開示要求に応える。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン全体でのCO₂排出量を明らかにする事で、排出削減の為により効果的な対策を打てる。● CO₂排出量の透明性が高まり、ステークホルダーに対して積極的に開示できる。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 調達、物流、製造、人事部門からデータを収集し、環境部門で算定する。● エネルギー使用量・廃棄物使用量について社内データベースを活用して算定する。

2

旭硝子株式会社

	各社の考え方
□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● グリーン調達、廃棄物の排出量削減に取り組む。● 物流では、適切な配車と積載率の向上ならびにモーダルシフトに取り組む。
□ サプライチェーン 排出量算定の課 題	<ul style="list-style-type: none">● 原単位、排出量の精度向上。● 海外の活動量、原単位データの整備。● 効率的で手間のかからない算定方法。
□ その他(任意)	

3

旭硝子株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入量(原材料、消耗品、サービス等)	● CFP-DB
カテゴリ2「資本財」	● 固定資産の投資金額	● 3EID
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 輸送トンキロ	● CFP-DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物の種類別排出量	● CFP-DB
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額(旅費等)	● 環境省原単位DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額(交通手当等)	● 環境省原単位DB、CFP-DB
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● リース資産無いため除外	—
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● シナリオ設定による輸送トンキロ	● CFP-DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 把握困難のため除外	—
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当無しのため除外	—
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 販売した製品の想定廃棄量	● CFP-DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● リース資産無いため除外	—
カテゴリ14「フランチャイズ」	● フランチャイズ無いため除外	—
カテゴリ15「投資」	● 投資先の排出量に株式の保有割合を考慮	—
「その他」	● 上記以外で算出している項目無し	—

4

旭硝子株式会社

算定結果

● サプライチェーン排出量

